第３７回 危険業務従事者叙勲

令和３年１１月３日に発令された、第３７回危険業務従事者叙勲の市内の受章者を紹介します。※承諾いただいた方のみ掲載

危険業務従事者叙勲
瑞宝単光章
（警察功労）

眞邊（まなべ） 英雄（ひでお）さん（７２歳）
土佐山田町東本町

眞邊さんは、昭和４５年に採用され、平成２２年に退職されるまでの４０年間、警察官としての職務を全うされました。

在職中は、主に現在でいう地域課に所属しており、地域住民の安全と安心を守ることに努められました。その中でも、一番心に残っているのは、繁藤災害。「災害時は、現地に出動し、遺体の検視を行っていた。今思い出しても、心が苦しくなる」と話されていました。

うれしい思い出として、「警察官友の会が選考している『県民のおまわりさん』を２回受賞したことと、高知新聞の声ひろば欄に、当時勤務していた本山町の小学生が、『みまもってくれるおまわりさん』として自分のことを書いてくれたことは今でも鮮明に覚えている」と笑顔が見られました。

現在は、リハビリ中のため、家にいることが多いが、治れば、趣味である山登りとマラソンを再開したいと話されていました。

香美市森林環境税活用事業

申し込みいただいた方からの投稿を募集しています！！

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

ここちゃん

木のギフトでどんぐりイスを頂戴しました。ありがとうございました。

８月25日の誕生日に届きました。初めて見る物でしたので驚いて泣きましたが、今ではつかまり立ちの支えとなっています。座れるようになるのは少し先ですが大切に使っていきます。

これから先、どんぐりイスが成長していく娘の思い出のひとつになることと思います。

※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。

投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記メールアドレスまでお送りください。

『ぷらっとホームMoku』のご協力により、南国市十市パークタウン内で木のギフトを手に取ってご覧いただけるようになりました。 ←場所等はこちらをご覧ください

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52－9283 Ⓔrinsei@city.kami.lg.jp

令和３年 秋の叙勲

令和３年１１月３日に発令された、令和３年秋の叙勲の市内の受章者を紹介します。※承諾いただいた方のみ掲載

秋の叙勲
瑞宝双光章
（学校保育功労）

高橋（たかはし） 啓彰（ひろあき）さん（７４歳）
香北町美良布

高橋さんは、昭和５０年に高橋歯科医院を開業して以来、現在まで学校歯科医として、子ども達の保健衛生の向上に大きく貢献されております。現在は、大宮小学校の学校歯科医を務められていますが、学校歯科医を始められた頃は、大宮小学校だけでなく、物部村の各小・中学校にも出向かれていました。

高橋さんは、「学校歯科医を始めた昭和５０年頃は、大宮小学校は350人近く生徒がいたにもかかわらず、今となっては、約１５０人と少し寂しい気持ちになるが、子どもたちの口の中の健康を願って取り組んでいます」と話していただきました。

今後について、「少しでも地域のためになれるよう、自分の健康が続く限り、学校歯科医と歯科医院を続けていきたい」と力強く話されました。

秋の叙勲
旭日双光章
（地方自治功労）

石川（いしかわ） 彰宏（あきひろ）さん（７０歳）
香北町吉野

石川さんは、平成９年に香北町議会議員に初当選して以来、町村合併後も香美市議会議員として、２１年の長きにわたり在職されました。この間、町議会、市議会の両議会において議長、副議長などの要職を務められ、町政および市政の発展に尽力されました。また、在職中には全国市議会の監事を務められたこともあります。

香北町の都市計画、教育、福祉、まちづくり等で、町の発展に貢献されました。また、市議会においては、定住人口増加を目指し、あらゆる施策の展開について検討を行われました。

特に、大宮小学校の木造建設、町村合併、新庁舎完成、議会の議案等のペーパーレス化への提言は力を入れて取り組んだとお話しいただきました。

石川さんは、「地域住民の暮らしが良くなるように、また、次世代へ繋げることができるまちづくりを念頭に取り組んできました。今は市民の立場で応援している」と話されました。

秋の叙勲
瑞宝単光章
（消防功労）

比江森（ひえもり） 繁昌（しげまさ）さん（８１歳）
土佐山田町大平

比江森さんは、昭和３６年８月土佐山田町消防団佐岡分団団員になって以来、４３年の長きにわたり、消防団に在団されました。分団長を経て、山田消防組合土佐山田消防団副団長も務められ、団長を補佐し、消防団の団員確保、団員間の親睦を深めることに尽力されました。

消防団を務めていた中でも、特に力を入れて取り組んだことは、繁藤災害後の消防団員の確保です。「当時は、佐岡の分団長を務めていたが、佐岡地区の部落長に集まってもらい、各部落から消防団員を推薦してもらうようお願いしていた」と話されていました。また、消火活動はもちろん、団員としての経験をもとに、団員の２次災害防止や安全管理意識の向上にも尽力されました。

現在は、１０代のころから始め、約６５年間続けている農業に励まれています。「作って身内にも渡さんといかんき、元気なうちは、続けていく」と話されていました。